

令和4年度東北農業試験研究推進会議 作物生産推進部会
農業経営研究会（冬期） 開催要領

東北農業試験研究推進会議 作物生産推進部会長
農研機構東北農業研究センター
水田輪作研究領域長 迫田登稔

1. 趣 旨

みどりの食料システム戦略では、2040年までに主要な品目において次世代有機農業に関する技術を確立し、2050年までに輸出を含めて市場を拡大しつつ耕地面積に占める有機農業の取組面積割合を25%に拡大させることが示された。「みどりの食料システム戦略」に対応して、農研機構ではNAROプロ7「有機農業」が開始され、東北農業研究センターは「水稻－大豆の輪作における有機栽培体系の現地実証と普及」に取り組み、スマート農業実証プロジェクト（令和3年度補正）による事業において、「省力除草、安定生産の水田有機栽培体系の実証と支援アプリケーションの開発」という課題に取り組んでいる。

東北地域における農業経営研究分野では、開発及び有効な既存技術の横展開への貢献が求められている。具体的には技術開発研究者および事業推進担当者らと連携しつつ、有機農産物を活かした輸出を見据えたビジネスモデルの提示、および技術の受け手からの意見や要望の収集を通して技術普及の促進が図られると考えられる。そこで、農業経営研究会においては、ビジネスモデルの提示や既存有機農業生産者を対象としたアンケート結果を報告の上、意見交換を行う。

2. 開催日時 令和4年1月24日（火） 13：30～16：45
1月25日（水） 9：00～11：45

3. 開催場所 アイーナ（いわて県民情報交流センター）研修室811
（Teams リモート会議併用）
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1

4. 議 題

1月24日（火）13：30～16：45

1) 重点検討事項「みどりの食料システム戦略技術の横展開」
講演（話題提供）

座長 農研機構東北農業研究センター 水田輪作研究領域 笹原和哉

①「有機農業・食品産業の活性化に貢献する輸出拡大を見据えたビジネスモデル（仮）」

農研機構東北農業研究センター 水田輪作研究領域 水田輪作グループ 安江紘幸

②「有機農業生産者向けアンケートの結果報告（仮）」

農研機構東北農業研究センター 研究推進部 事業化推進室 船附稚子

1月25日（水）9：00～11：45

- 2) 令和4年度研究成果情報の検討
- 3) 現場段階での重要な技術的課題の検討
- 4) 「みどりの食料システム戦略」技術カタログ候補の選定
- 5) その他

5. 参集範囲

国立研究開発法人試験研究機関および公設試験研究機関の関係者、大学関係、県行政部局・県普及部局の関係者、その他推進部会長が必要と認める者

6. 連絡先

事務局：農研機構東北農業研究センター 水田輪作研究領域 笹原和哉
〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4
TEL：019-643-3493 E-mail：sasa@naro.affrc.go.jp

7. その他

- 1週間前ごろに、オンライン会議への接続状況を把握するためにテストを行います。新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対策として、リモート開催と会場参加のハイブリッドとします。感染状況によっては、開催を中止とする場合や、完全にリモート会議に開催方法を変更する場合があります。
- (アイーナ会場にいらっしゃる方場合)体調不良(発熱や咳、咽頭痛や倦怠感、嗅覚・味覚障害等)の場合には参加をお控えください。会場入口での検温および毒用エタノール等による手指消毒、室内等でのマスク着用にご協力をお願いします。
- (リモート会議を複数で観覧される場合)各地のリモートの拠点となる会議室等に複数人数が参集する場合、各機関の担当者は会場が三密の状況にならないよう留意してください。また、参加者には検温、手指消毒の励行、並びに発言の有無に関わらずマスクの着用をご指示ください。
- 万一、会議参加者に新型コロナウイルスの感染者が確認された場合、感染経路や濃厚接触者の調査のため、保健所等の公的機関に参加者名簿を提示する可能性があることをご承知おきください。